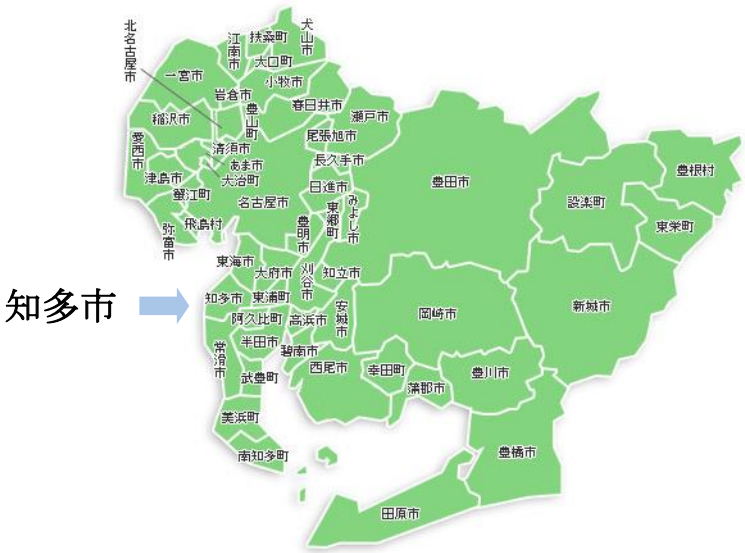
知多市及び消防のあらまし

知多市は、愛知県知多半島の北西部に位置し、北は東海市、南は常滑市、東は東浦町と阿久比町に接し、西は伊勢湾に面し、全体として平坦な土地で、四季を通じて比較的温暖な気候に恵まれた住みやすい街です。

昭和３０年に、八幡、岡田、旭の３町が合併して知多町となり、昭和３７年から始められた名古屋南部臨海工業地帯の埋め立てにより大企業が進出し、工業化・都市化に伴い昭和４５年９月１日に市制を施行して知多市になりました。昭和４８年からの宅地開発により人口が急激に増加し、名古屋都市圏のベットタウンとして発展してきました。

令和２年に市制５０周年を迎え「あたらしく、知多らしく。梅香る　わたしたちの緑園都市」を将来像に掲げ、市民が幸せに暮らす「理想の未来」を、まちづくりに関わるすべての人たちと連携・共同して実現することを目指しています。

消防体制は、消防本部、消防署、２出張所に消防職員１０８名（再任用４名）、石油コンビナート災害用特殊車両をはじめ消防車両２７台を配置し、消防団は５分団、団員１２８名（女性団員１９名）、消防車両１０台で、消防団退団者で編成する消防団防災支援隊７５名も配置しています。また、平成２４年４月に知多広域消防指令センターを知多地域６消防本部で設置し、１１９番通報の受信や無線通信業務等を集約し共同運用を開始しました。

一方、都市の発展に伴って発生する各種災害に備え、自主防災組織、女性消防クラブ、少年消防クラブの推進を図り、市民と一体になった総合防災体制の確立をめざしています。